

## 慰めよ、どの声かする イザヤ 40:1-8

2024. 9. 1、丘の上 NO. 732

春日部福音自由教会 山田豊

預言者イザヤは、捕囚となっているユダヤの民に語りました。

1 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——  
2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを【主】の手から受けている、と。

民を慰めるために語った言葉は、人々を導くために来られる方の道ぞ苗をすることであり、神の言葉の変わらないことであり、たとい疲れることがあっても驚のように翼を駆って力強く歩むことでした。

アッシジのフランシスコの平和の祈りにあるように、慰められるよりは他の人を慰めることができたら、素晴らしいと思います。しかしまず、慰められたいものです。パウロはコリントの教会の信者たちを慰めるために、この手紙をしたためました。1世紀という時代で、交通の要所であったコリントに建てられた教会は、大きな教会であったことでしょうか、いろいろな問題、苦しみがありました。そんな彼らを慰め、立ち上がらせ、生きることにおいてはもちろんのこと、たとい死に臨むようなことがあっても、それを毅然として受け止めるよう、慰めているのです。

人を慰めるというのは、言葉だけではありません。ともに食事をしたり、音楽を用いて慰めることがありました。人を亡くした時には、葬儀の儀式を行い、ともにいることが大きな慰めとなりました。しかし、ヨブの友人のように、他の人を慰めることがうまくできないことがあります。あまりにも悲しみが大きすぎて、慰められることを拒むこともあります。ヨセフを失ったヤコブが、そうでした。

イエスの語られた、ラザロと金持ちの物語は、興味を引きます。二人とも死んでしまいましたが、ラザロはアブラハムの懐に引き上げられ、慰めを得ているのです。人は死ぬと、慰めを受けるものと苦しみを受けるものとに分けられるという、厳粛なメッセージがここにあるのです。

また、本日の聖書個所に使われている慰めと同じ言葉が、ヨハネ 14:16にも使われています。個人的には、助け主と訳すよりは、慰め主と訳したほうがいいように思います。助け主、慰め主、すなわち聖霊は、私たちの傍らにいて、私たちに衷心から慰めてくださるのです。

神の慰めは、人を生かす力になります。心碎かれてイエスを迎えるとき、だれでもこの慰めをいただくことができるのです。

引用聖句

ヨブ 21:34 それなのに、どうしてあなたがたは空しいことばで私を慰めようとするのか。あなたがたの応答は、不信実以外の何でもない。

ヨブ 42:11 こうして彼のすべての兄弟、すべての姉妹、それに以前のすべての知人は、彼のところに来て、彼の家で一緒に食事をした。そして彼に同情し、【主】が彼の上にもたらされたすべてのわざわいについて、彼を慰めた。彼らはそれぞれ一ケシタと金の輪一つずつを彼に与えた。

創世記 37:35 彼の息子、娘たちがみな来て父を慰めたが、彼は慰められるのを拒んで言った。「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」こうして父はヨセフのために泣いた。

ルカ 16:25 するとアブラハムは言った。『子よ、思い出しなさい。おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみもだえている。』

ヨハネ 14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。